

支え合い

介護職員離職防止セミナー

県西部全体で定着支援

地域から

介護職員の離職防止対策を県西地域全体で検討するセミナーが8月29日、小田原市内で開かれた。社会福祉法人小田原福祉会潤生園など、県西地域の介護事業所16施設の人事担当者ら約50人が参加。採用後の定着支援が課題だとして、各事業所の研修方法などを紹介しあつた。法人規模により大きな差があることがあらためて確認され、介護人材を地域に止めて置くためには、共同研修など、地域全体での取り組みが必要だと指摘された。

前半は、リクルートキャリアの介護部門プロジェクト「HELP MAN JAPAN」の担当者が、新人介護職員の心理的な離職メカ

ニズムを解説した。介護業界で活躍する人材は「慎重・繊細」タイプが多いが、このタイプはSOSを発信しにくく、離職を申し出た場合は十分に考えた後なので、翻意は難しいとした。そのため、日ごろの丁寧な研修が不可欠だととり立ちが期待される3カ月目、ひり研修を実施し、「同期の絆」「初心者長の井口健一郎さんが、同会が2015年度に実施した教育改革を報告。法人の哲学を浸透させる教育、入社時研修と6カ月研修の充実、専門性の鍛磨などで、1年未満の退職者が激減した経緯を語った。

後半のワークショッピングでは、各施設の取り組みや課題を語り合った。新人教育役のトレーナー(チユーター)には辞令や手当を出し士気を高めたり、入社前に3週間に及ぶ事前研修を行つてたりする事例が報告され、検討課題にされていて。(熊谷 和夫)



介護職員の定着支援方法を検討したセミナー=小田原市蓮正寺、潤生園れんげの里

の再確認」「周囲からの期待・承認」の3要素を満たしてほしいとした。小規模法人の場合は、共同研修や法人をまたがつた「同期の絆」を作る機会を設けるなど、地域での取り組みが必要だと訴えた。

また小田原福祉会人財育成セン